日本超音波医学会第93回学術集会

Webセミナー-02(L2-03)

- 日時 2020年12月02日(水) 12:10~13:10
- 会場 第3会場

座長

飯島 尋子 先生

兵庫医科大学病院 消化器内科/超音波センター

演者1

杉本 勝俊 先生

東京医科大学 消化器内科

演題名

超音波の今後の新展開

~Shear wave elastographyから multiparametric USへ~

演者2

畠 二郎 先生

川崎医科大学 検査診断学

演題名

i seriesでどう診断するか？

杉本 勝俊 先生
(東京医科大学 消化器内科 准教授)

近年、予防や治療薬の進歩によりウイルス性肝炎は減少傾向である。一方、脂肪肝の増加が著しく社会的に問題となってきた。特に非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）は肝硬変や肝がんを併発することがあり、肝関連死の主要な原因となりつつある。NASHの診断は肝生検によりなされるが、侵襲的な手技であるがゆえにすべての患者に施行することは困難である。そこで、非侵襲的な診断手法の開発が望まれている。キヤノンから市販されている超音波診断装置であるAplio *i-series*にはLiver packageが搭載されている：それにより肝線維化の推定に有用なLiver Stiffness (kPa, m/s)、肝小葉内炎症の推定に有用なDispersion Slope ([m/s]/kHz)、および脂肪肝の推定に有用なAttenuation Coefficient (dB/cm/MHz)の複数の画像パラメータ測定が可能である。本講演では、NASH診療におけるMultiparametric Ultrasoundの有用性につき概説する。

Radiology | Published Online: Jun 23 2020

<https://pubs.rsna.org/doi/abs/10.1148/radiol.2020192665>

畠 二郎 先生
(川崎医科大学 検査診断学 教授)

患者さんの診療方針に影響しない検査は必要のない検査と言えます。例えば超音波ではどんなに美しい画像、インパクトの強い画像であっても診断に寄与しなければ臨床的には意味がないと言えるでしょう。簡単に言えば、「それって何か意味あんの？」ということですね。その点で近年開発されたスーパーワイドスキャン、ゆらぎイメージング、Superb Microvascular ImagingやShear wave elastography、さらには超高周波プローブと、新しいハードやソフトは本当に必要なの？と思われている方々もいらっしゃるかも知れません。そこで今回はさらなる新しい技術（実はいくつかあるんですが…）のご紹介はさておき、先に列挙したアプリケーションをどのように用い、それがどう役立っているかを症例の呈示を中心にお話したいと考えています。中には初めてご覧になる疾患もあるかも知れません。「見えないものをみる」これらの技術ですが、多種多様な状況で役立つことを感じて頂ければ幸いです。